千葉市スマートシティ推進ビジョン
～みんなでつくる「快・適」なまち！～
（案）

令和4年1月

千　葉　市

はじめに

「千葉市スマートシティ推進ビジョン」は、私たちが将来にわたって快適な生活が続けられるまちを実現するため、目指すべき将来像や取組みの方向性を共有するために策定するものです。

私たちが直面している少子高齢化や地球温暖化に伴う気候変動などの課題は、今後ますます深刻化する懸念があり、行政のみならず、全ての市民や事業者の皆さんと一体となって解決に向けて取り組んでいく必要があります。

また、急速に進展するICTやAIといった新しい技術は、多くの課題の解決の糸口となる可能性を秘めています。千葉市では、これまでも積極的に新しい技術を導入してきましたが、今後も課題解決のための重要な要素となります。

本ビジョンには、千葉市が考える「スマートシティとはなにか？」「どんなことが実現できるのか？」、そして「どのように課題の解決に取り組んでいくのか」を示していますので、皆さんとともに、快適で持続可能なまちをつくりあげていきたいと考えています。

ビジョンの構成

１　策定趣旨 …3

２　位置付け・期間 …4

３　基本的な考え方 …5
（１）千葉市が目指すスマートシティ
（２）スマートシティ実現のための原則と重視する視点

４　取組みの方向性～５つのスマート！～ …9
〔暮らし・ビジネス・学び・まち・市役所〕

５　推進体制・推進手法 …15

６　ロードマップ …18

【資料１】千葉市の現状・特徴 …19

【資料２】策定の背景 …20
（１）本市を取り巻く重要な社会変化
（２）これまでの主な取組み
（３）テクノロジーの進展
（４）国の動向

1　策定趣旨

本市は、将来予想される重要な社会変化に対し、持続可能なまちづくりを進めるため、急速に進展するテクノロジーと、これまで培ってきたICT活用に関するノウハウを最大限に活かし、地域とともに「スマートシティ」の実現を目指します。

策定の背景　※詳細は20ページ以降参照

①本市を取り巻く重要な社会変化

- ✔ 人口減少・少子高齢化の進展
- ✔ 地球温暖化に伴う気候変動リスク
- ✔ 大地震の発生による被災リスク
- ✔ 新型コロナウイルス等感染症拡大リスク
- ✔ 公共インフラの老朽化

②これまでの取組みによる成果

- ✔ 「時間を返す」市民サービスの実現
- ✔ 市民全員参加のまちづくり
- ✔ 国家戦略特区制度を活用した実証

③テクノロジーの進展

- ✔ IoT・センシング技術
- ✔ 分析・予測技術
- ✔ 通信・ネットワーク技術
- ✔ 自動制御技術

④国の動向

- ✔ Society5.0の提唱
- ✔ デジタル社会形成基本法の制定

さらなる飛躍・発展を遂げるための好機が到来

テクノロジーの活用などにより、市民生活の質の向上を図るとともに、持続可能なまちづくりを進めるため、目指すスマートシティの姿や取組みの方向性を地域住民や民間企業など、異なる役割を担う多くの主体と共有する**「千葉市スマートシティ推進ビジョン」**を策定

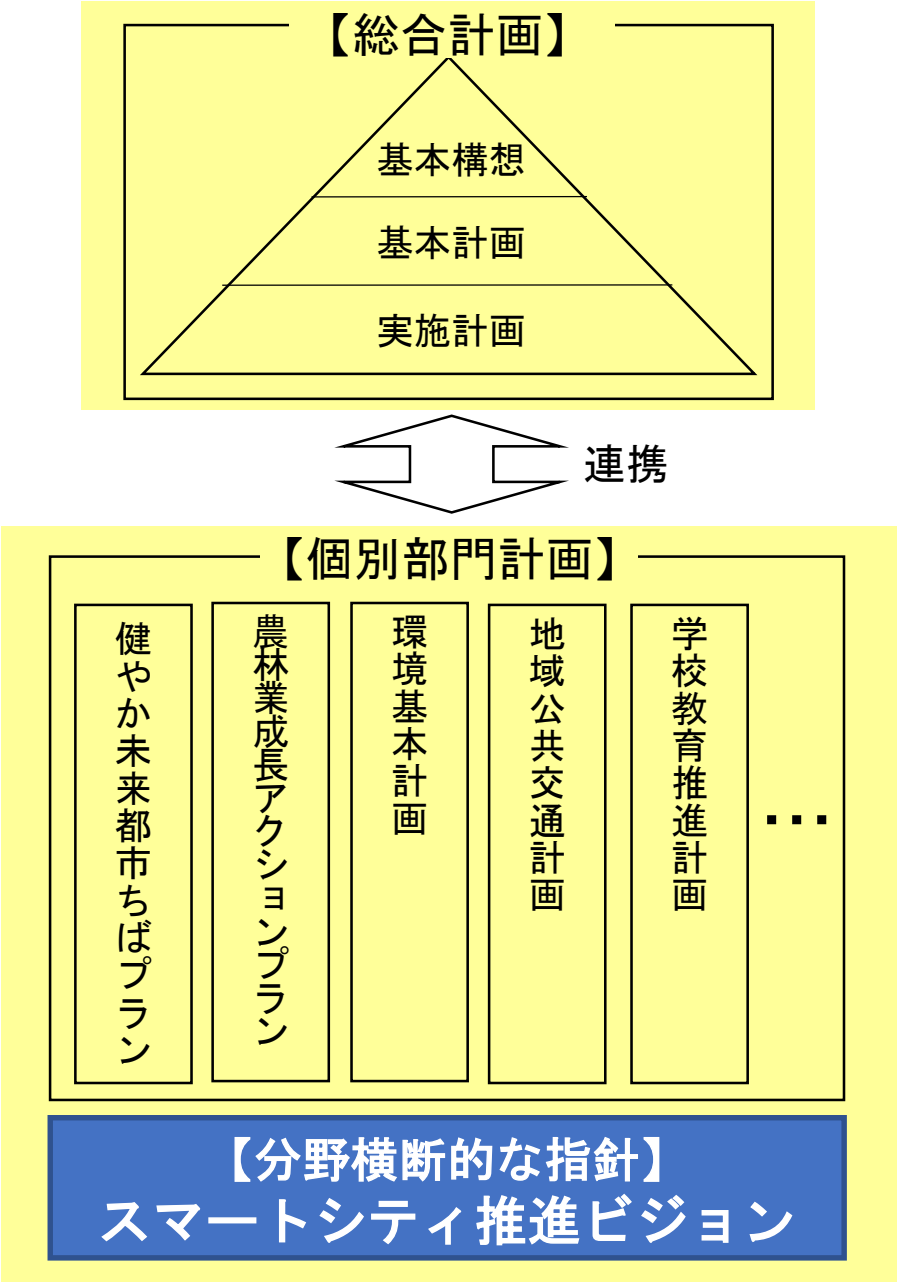
2 位置付け・期間

【位置付け】

総合計画におけるまちづくりを推進し、スマートシティを実現するため、各個別部門計画と整合を取りつつ、分野横断的な指針として策定

【期間】

20年後を見据えての10年程度を対象
※国の政策の方針や先端技術等の動向を踏まえ、
5年程度を目安に見直す。



3　基本的な考え方①

（１）千葉市が目指すスマートシティ

ロボットによる就労支援

MaaSによる
ストレスのない移動

再生可能エネルギーの活用

サービスのオンライン化

ライフスタイルに合った
働き方

みんなでつくる「 快 ・ 適 」なまち！
（ここちよく）（ちょうどいい）

キャッシュレス決済の普及

あらゆる市民が自分に最適な暮らしを実感（個別最適）

自然環境に配慮し、大切な資源を活かした、持続的な発展（全体最適）

様々な主体が、地域の課題解決、新たな価値を創造（市民主体）

ICTを活用した多様な学び

データ分析を活用した
健康寿命の延伸

3　基本的な考え方②

「みんなでつくる『快・適』なまち！」とは・・

（ここちよく）　（ちょうどいい）

・あらゆる市民が自分に最適な暮らしを実感できる【個別最適】

暮らしを豊かにする手段としてテクノロジーの活用や環境の整備等により、多様な選択ができるようになり、市民一人ひとりが自分に合ったサービスを受けることが可能になります。

例えば、ヘルスケアデータ分析を活用した保健指導、RPAやロボット等の導入による負担軽減、場所や時間を問わないオンライン学習などが挙げられます。

・自然環境に配慮しながら、大切な資源を活かし、持続的に発展している【全体最適】

地球温暖化による気候変動リスク等の社会変化の到来に備え、自然環境に配慮した持続可能なまちづくりを進める必要があります。また、限りある時間・空間・その他の資源を賢く有効に利用することで持続的に発展しつづけることが可能になります。

例えば、脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー利用、生活インフラの効率的な維持管理などが挙げられます。

・様々な主体が、地域の課題解決、新たな価値の創造に取り組んでいる【市民主体】

「快・適」なまち！の実現には、様々な主体とともに、取り組んでいく必要があります。

行政だけでは解決が困難な課題に対し、市民とともに取り組むことでニーズを反映した解決が図られます。また、民間事業者等のもつテクノロジーを活用することで、新しいサービスが生まれることも期待されます。

3　基本的な考え方③

（２）スマートシティ実現のための原則と重視する視点

目指すスマートシティの実現に向けた考え方の基本的な事項として「３つの原則」、その上で取り組むにあたって留意すべき事項を「５つの視点」としてそれぞれ整理し、原則・視点に則った取組みを推進します。

３つの原則

①市民中心

・市民中心を最重要原則とし、市民と一体となってまちづくりを実現
・市民一人ひとりが活躍できるような環境の実現
・市民とともに自分に合った利用しやすいサービスを創出

②課題解決・価値創造

・地域課題を解決するための手段として、テクノロジーを活用
・チャレンジ精神をもって取組み、イノベーションによる新たな価値やサービスを創造

③分野横断・全体最適

・サービス同士の連携をはじめ、行政や民間を含めた様々なデータ連携によるサービス創出
・分野横断・全体最適の取組みにより、環境にやさしい持続可能なまちづくりを推進
・共通サービスの実現やコストシェアなど自治体連携を意識した取組みを推進

3　基本的な考え方④

５つの重視する視点

①多様な主体間の連携

・大学・民間企業・関係団体・市民グループ等、多様なステークホルダー同士が連携を深め、各者が保有する豊富な知見・データを活かした取組みを推進

②自立性・持続性

・将来予測を踏まえた持続性を考慮した仕組みの検討
・サービス利用者・提供者の双方がメリットを享受できる仕組みを意識

③個人情報の取り扱い

・実施サービスごとに取り扱いルール（事前同意、透明性の確保など）を定め、市民が安心してサービスを利用できるよう個人情報の取り扱いを明確化

④安全・安心の確保

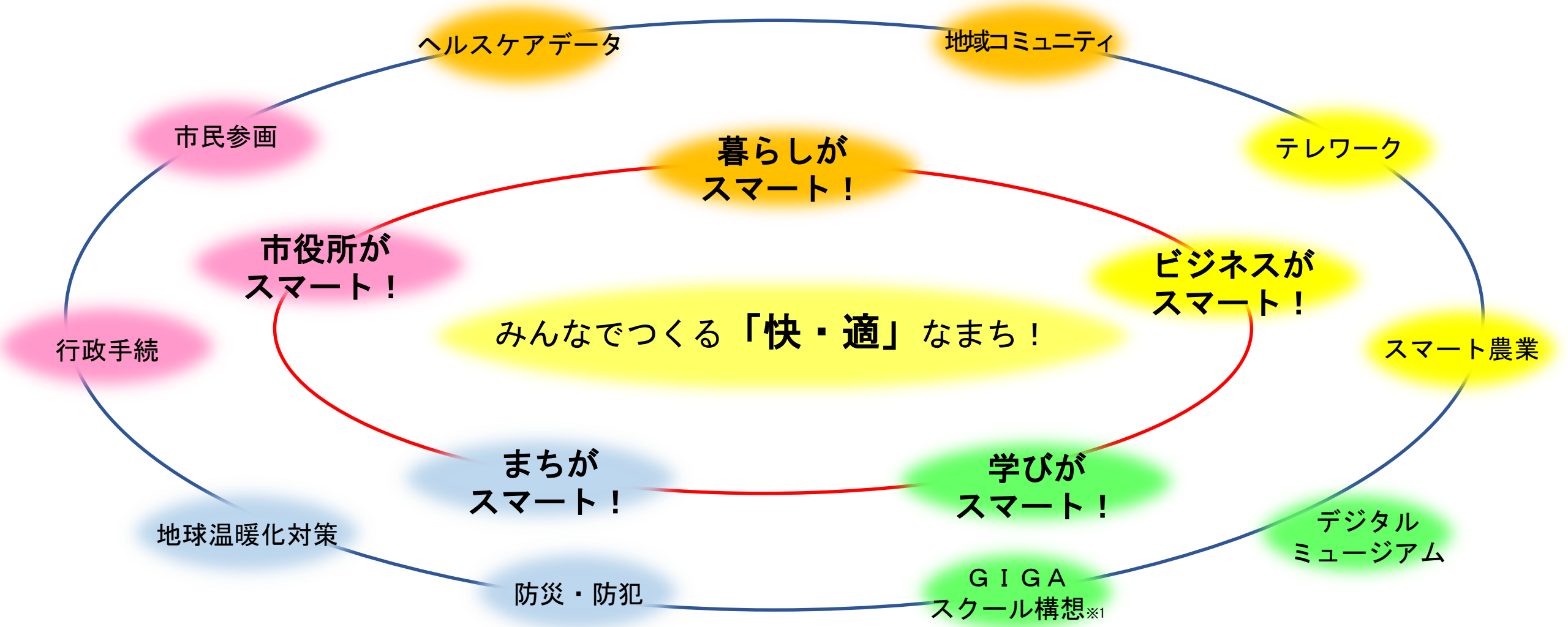
・安全・安心を実感できる犯罪・事故の抑止、災害への備え
・サイバー攻撃等に対応した強固な情報セキュリティ対策の実施

⑤データ活用による課題解決

・データの分析により得られた科学的根拠の活用
・データ活用により課題解決策を導くためのデータ活用人材の育成

4　取組みの方向性　～5つのスマート！～

目指すスマートシティの実現に向けて、あらゆる分野を市民（利用者）目線で、「暮らしがスマート！」「ビジネスがスマート！」「学びがスマート！」「まちがスマート！」「市役所がスマート！」の５つに分類し、市民ニーズや地域課題に基づく様々な取組みを分野横断的に順次実施していきます。



※１　GIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現することにより、これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すことを目指した取組み。

4　取組みの方向性1　暮らしがスマート！

目指す姿

・あらゆる市民が
場所や時間を問わないサービス、**活発なコミュニケーション**
によって
健康な生活、**充実した生活**を得られる

目指す姿の要素	方向性	取組例
場所や時間を問わないサービス	ニーズに対応したサービスの普及	・多様なサービスのオンライン提供（遠隔医療等） ・シェアリングエコノミー（遊休地の利活用等） ・キャッシュレス決済
活発なコミュニケーション	様々な個性を尊重しあう連携・協働の実現	・双方向コミュニケーションによる共助 ・地域情報のデジタル化・多言語化による共有
健康な生活	健康寿命の延伸	・ヘルスケアデータ分析を活用した保健指導 ・運動量や生活習慣のデジタル化による健康の可視化
充実した生活	生きがいを持った生活	・個別に最適化された多様なサービスの提供

4　取組みの方向性2　ビジネスがスマート！

目指す姿

あらゆる人材が、**活躍できる多様な就労環境**のもと

・働く人が、**仕事と生活のバランス**を保ち、**やりがいや向上心**をもって働く

・事業者が、**新しい価値の創出や生産性の向上**を実現

目指す姿の要素	方向性	取組例
活躍できる多様な就労環境	個性を活かした人材活用 多様な就労環境の提供	・RPA、ロボット等の導入による負担軽減 ・新しい技術や手法を活用できる人材の育成 ・テレワークの促進や柔軟な勤務体系
仕事と生活のバランス	ライフスタイルに合った就労	・安心して働くことのできる環境づくり ・多様な人材の社会進出促進
やりがいや向上心	個性や能力に合った、自分らしい労働、自己研鑽	・就労時のマッチング支援 ・スキルシェア
新しい価値の創出や生産性の向上	積極的な技術・アイデア導入 社会ニーズに対応した産業の創出	・技術とニーズのマッチング ・新産業創出、起業支援 ・DXの推進による生産性向上

4　取組みの方向性3　学びがスマート！

目指す姿

あらゆる市民が

・**時間や場所を問わず**、**多様な方法**で、 **生涯にわたり**
個々に応じた質の高い学びに取り組むことができる

・**千葉市に対して愛着**を持ち、郷土について学ぶことができる

目指す姿の要素	方向性	取組例
時間や場所を問わず 多様な方法	多様な学びの手法	・オンライン学習などICT技術の活用 ・高齢者などのデジタルデバイドの解消
生涯にわたり	学ぶ機会が途切れない	・文化・芸術・スポーツに親しめる環境整備 ・生涯学習に関する情報提供の充実
個々に応じた 質の高い学び	個別に最適化された学習	・データを活用した児童生徒に対する指導 ・学習コンテンツの充実
千葉市に対して愛着	千葉市らしさの理解が深まり、まちへの愛着を持つ	・将来の千葉市を支える人材育成 ・文化財のデジタル化による保存・活用

4　取組みの方向性4　まちがスマート！

目指す姿

あらゆる市民が

・**暮らしを支える充実した基盤**のもと、**安全・安心な生活**を送ることができる

・**環境にやさしく**、**緑や水辺と調和**した、**千葉市の魅力を感じる**ことができる

目指す姿の要素	方向性	取組例
暮らしを支える充実した基盤	ストレスのないインフラ網 快適に移動できる交通手段	・生活インフラの効率的な維持管理 ・MaaS、次世代モビリティサービス
安全・安心な生活	犯罪・事故の抑止 有事への備えの充実	・カメラやAIを用いた危険個所の把握 ・AI、ICTを活用した適切な災害対応
環境にやさしく	自発的な環境保全行動 資源・エネルギーの最適化	・ごみ削減などデータを活用した効果の可視化 ・脱炭素社会に向けた再生可能エネルギー利用
緑や水辺と調和	豊かな緑や水辺に親しむことのできる環境	・景観に配慮したまちづくり ・多様な主体との連携による自然保護
千葉市の魅力を感じる	人に伝えたくなる魅力づくり	・地域の魅力の再発掘・磨き上げ ・MICE等の機会を通じた来訪者への魅力発信

4　取組みの方向性5　市役所がスマート！

目指す姿

・市民を中心とした多様な主体が**市政に参画**し、**共に公共サービス※を創り**、
　地域課題を解決することができる
・一人ひとりの**ニーズに合わせた公共サービス**を選ぶことができる
・市役所は、**積極的にスマートシティの実現をリード**する

※公共サービス：行政サービスを包含した、多様な主体が担う公益性の高いサービス

目指す姿の要素	方向性	取組例
市政に参画	参画しやすい場と関係づくり	・オンラインの活用による参画機会の拡充 ・市政に関する情報への接触機会の向上
共に公共サービスを創る	各主体がデータを積極的に活用できる仕組みづくり	・ICTを活用した情報共有 ・オープンデータの推進 ・市役所・各主体間でのデータ連携基盤の構築
ニーズに合わせた公共サービス	提供内容・方法の充実	・サービス内容の充実・多様化 ・サービスのオンライン化 ・プッシュ型サービス、対話型サービス
積極的にスマートシティの実現をリード	市役所から自己変革	・市役所のデジタル化の推進 ・データ活用による課題解決

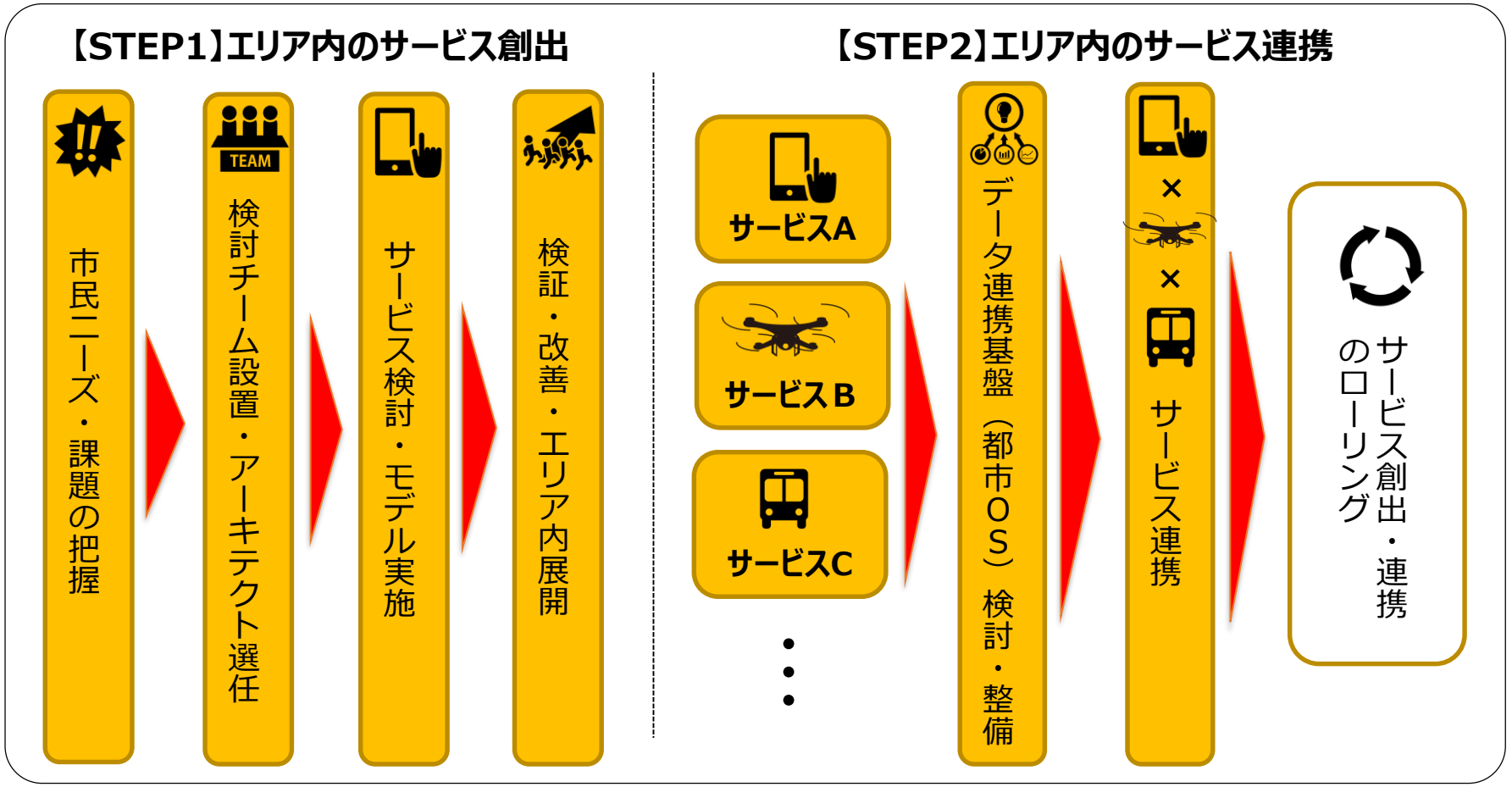
5 推進体制・推進手法①

○スモールスタートからのステップアップ

・チャレンジ精神を持って新たな技術や手法等を積極的に取り入れ、最適なサービスを創出

・エリアごとに、地域住民等と目指すべき姿をともに考え、その実現に向けてモデル的な取組みから着実に実施

・エリア内での複数の取組みを繋げ、より良いサービスに進化するとともに、他エリアへ横展開



【STEP3】他エリアへの展開

5　推進体制・推進手法②

○産学官民での協力

・取組単位で、有識者や民間事業者、庁内関係課をはじめとする多様な主体を巻き込んだ検討チームを必要に応じて設置

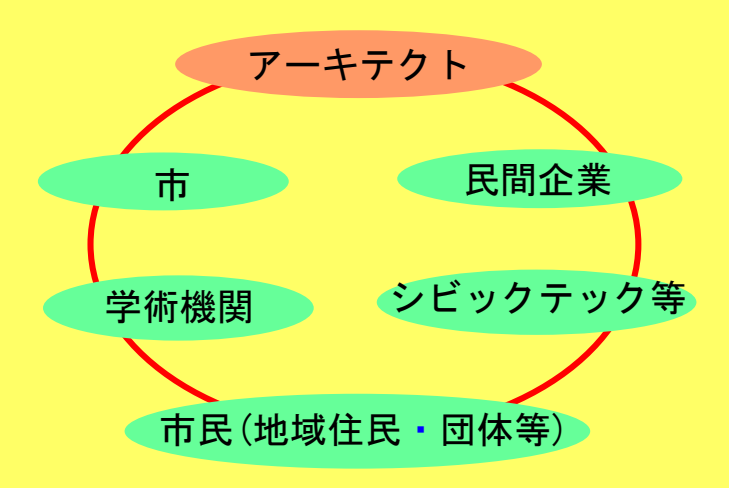
・検討チームは、中立的な立場でプロジェクトを牽引し、調整する人材であるアーキテクトを中心とした産官学民で構成

・テクノロジー活用に関する知識と課題解決に前向きな想いを持ったシビックテック団体や民間企業等と有機的に連携

・稼働世代や学生など幅広い年齢層が参加し、多様な意見を引き出し、課題解決策に活かすなど、協働によるまちづくりを推進

・段階的に行政の主体性を移行し、将来的には検討チームが新たな役割を担うエリアマネジメント団体に発展

検討チームの構成例



○市全体として統一的な対応が求められる取組み

・検討チームの運営に係る共通的な事項
　検討チームに参画するための環境整備、各エリアでのデータの取扱いに関するルール策定など

・環境分野など、特定のエリアに依存しない市全体の課題等への対応

5 推進体制・推進手法③

データ連携基盤（都市OS）とは

スマートシティ実現のために、共通的に活用する機能が集約され、様々な分野のサービスの導入を容易にさせることを実現するITシステムの総称

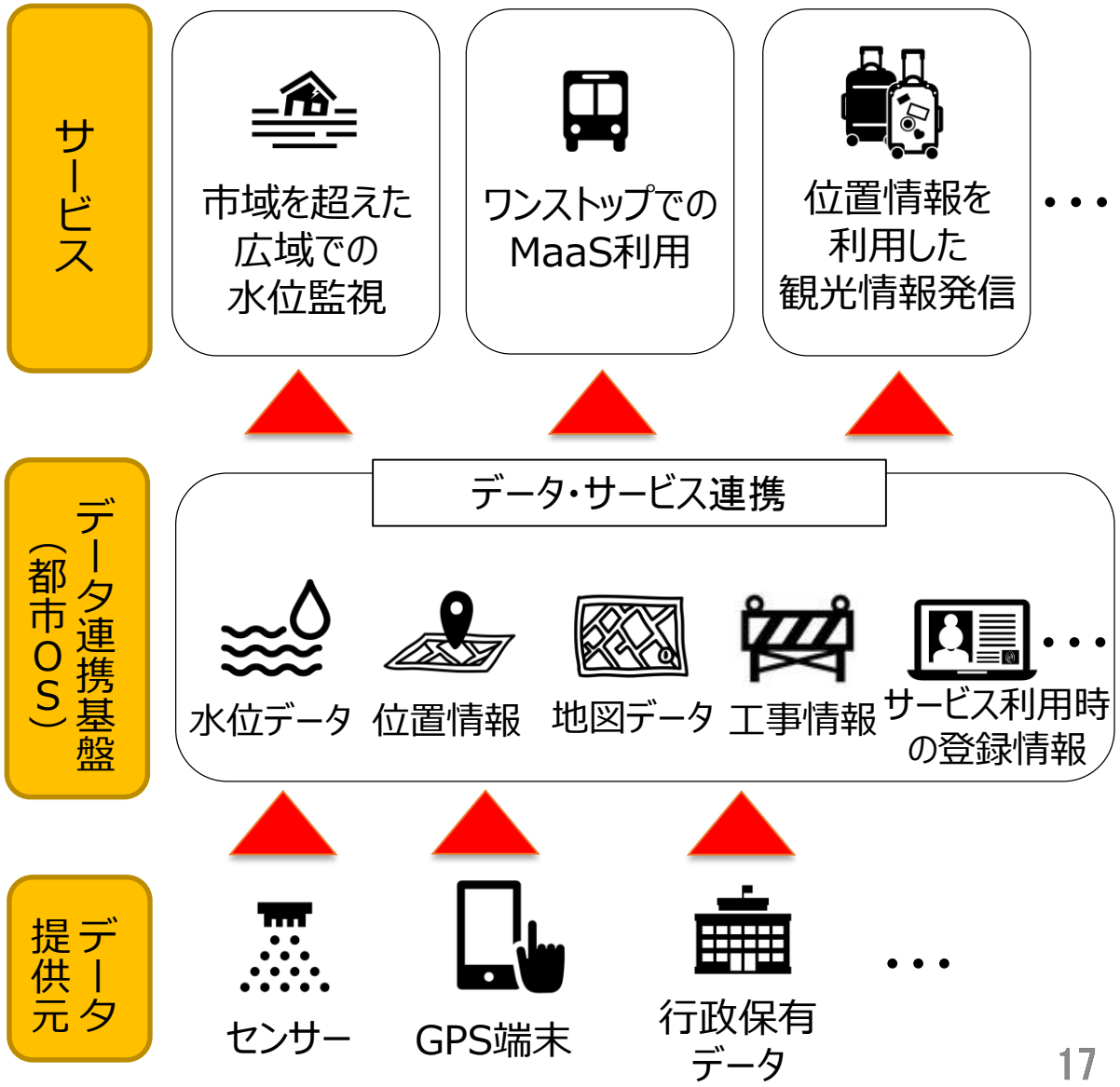
【導入の考え方】

- 基盤導入を先行するのではなく、複数サービスの連携時など、展開に合わせたニーズに応じて導入
- 将来的にエリア間・自治体間でのデータ連携を実現

〇主な特徴

- **相互運用（つながる）**
  多様なサービスや他分野のシステム、他都市のデータ連携基盤と連携できる
  ＜連携により期待されるサービス＞
  ■サービス連携：同一IDで利用可能な複数サービス
  ■分野間の連携：分野や組織を超えた高度なサービス
  ■都市間の連携：防災など市域を超えた広域的サービス
- **データ流通（ながれる）**
  エリア内外の様々なデータを仲介して連携できる
- **拡張容易（つづけられる）**
  展開に合わせた段階的な拡張が容易にできる

データ連携基盤（都市OS）のイメージ



6 ロードマップ

スマートシティ推進のための主要なカテゴリーごとに発展させていくイメージを、市民生活に浸透し一般化している状態を想定して示します。

	現状	５年後	１０年後
サービス創出	分野ごとの課題解決・価値創造サービスの検討・創出	分野横断による課題解決・価値創造サービスの検討・創出	課題解決・価値創造サービスの横展開・全市展開
テクノロジー実証	先行エリアにおける実証（自動運転・ドローン等）	先行エリアにおける実装 他エリアにおける実証・実装	実装事例の横展開・全市展開
データ連携	サービスごとのデータ利活用 オープンデータの利活用 データ連携基盤（都市OS）の検討	サービス間のデータ連携 民間データ利活用・官民データ連携 データ連携基盤（都市OS）の整備	データ連携基盤（都市OS）によるエリア間・自治体間のデータ利活用・連携
市民参加	市民対話会やパブリックコメント、地域の代表者による会合等	デジタル活用による参加機会の拡大 参加世代の多様化によるコミュニケーション活性化	行政と地域との双方向のコミュニケーションによるまちづくりを実現

２０年後のイメージ

みんなでつくる「快・適」なまち！の実現

- バーチャル空間とデータを活用によるリアルタイム課題解決、将来課題予測の実現
- 課題解決・価値創造サービスの自治体間の連携
- あらゆる市民がつながり、市民主体のまちづくりの実現

【資料１】千葉市の現状・特徴

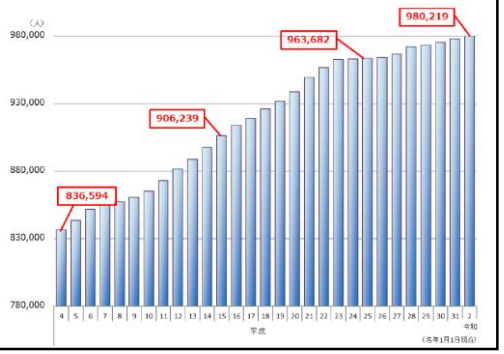
①地理

- 東京都心まで約40km、成田国際空港まで約30kmの場所に位置。
- 市域面積は約272㎢。
- 沿岸部には日本一の長さの人工海浜が、内陸部には田園や里山が広がり、大都市でありながら緑と水辺に恵まれている。

②人口

- 人口は安定的に増加し続け、約98万人。世帯数は約43万世帯。
- 本市への転入は県内からが中心で、主に市以東、以南の都市からの転入人口に支えられている。

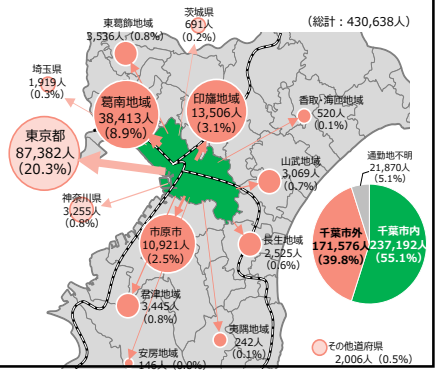
【人口の推移（推計人口）】



③人の動き

- 職住近接かつ、広域的な仕事や学びの場として高い拠点性を有する。
- 市民の通勤先は市内が58.0%と過半数を超える。
- 昼夜間人口比率は97.9%（首都圏政令市最大）

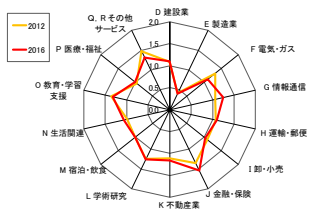
【市内居住者の就労地】



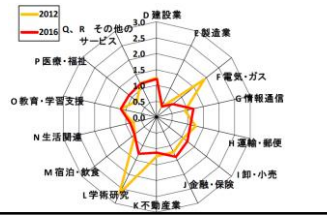
④経済と産業の動向

- 第３次産業の比重が高く、産業構造は概ね全体的なバランスが取れている。
- 情報通信業や飲食料品等を中心とした多様な産業の育成・集積を図り、域外収入を稼ぐ手段の多様化が必要。

【産業大分類別従業者数の特化係数】

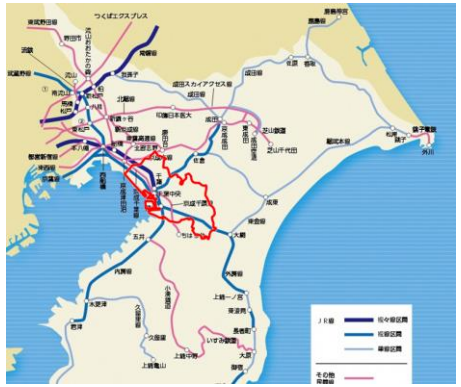


【産業大分類別付加価値額の特化係数】



⑤交通

- 鉄道や幹線道路の結節点であり、県内交通における重要な地点になっている。
- 鉄道・モノレール・バスが公共交通網を形成しているものの、他の首都圏政令市と比較すると自動車依存率が高い。



⑥歴史

- 縄文時代の遺跡が面積比率で全国１位。加曽利貝塚は日本最大級の貝塚として、国の特別史跡に指定。
- 鎌倉時代に千葉氏の隆盛により、まちの繁栄が始まる。
- 2021年に市制施行100周年を迎えた。
- 2026年に千葉開府900年を迎える。

【資料2】策定の背景①

（1）本市を取り巻く重要な社会変化

人口減少・少子高齢化など、今後本市が直面することとなる重要な社会変化について整理します。これら社会変化の到来に備え、柔軟かつ持続可能なまちづくりが求められます。

○　人口減少・少子高齢化

現状	今後直面する社会変化
・東京から50km圏は人口増減の境界線、本市は人口増加地域の波打ち際 ・出生者が死亡者を下回る「自然減」の状態 ・市以東、以南地域の人口は既に減少 ・2020年をピークに人口減少に転じる見込み（平成27年国勢調査を基準とした将来推計） ・合計特殊出生率は2016年から低下し、2019年は1.26	・高齢化率は2055年に約4割まで上昇見込み ・高齢者の増加に伴う社会保障費の増大 ・生産年齢人口の減少に伴う税収減

○　地球温暖化に伴う気候変動リスク

現状	今後直面する社会変化
・気温の長期的な上昇傾向（記録的猛暑の発生） ・氷河、氷床の融解による海面水位の上昇 ・令和元年の台風や大雨により、電力・通信の断絶が生じるなど市民生活に甚大な被害が発生。その経験を教訓として、「災害に強いまちづくり政策パッケージ」を策定	・猛暑や大雨・洪水被害等、自然災害の深刻化・頻発化（電力・通信などのインフラへの影響）など市民生活に甚大な被害が発生 ・気温や海水温・海面水位のさらなる上昇 ・生態系の変化（環境に適応できない生物の絶滅）

【資料2】策定の背景②

○　大地震の発生による被災リスク

現状	今後直面する社会変化
・東日本大震災では、液状化現象により、家屋や公共施設等に甚大な被害が発生するだけでなく、通信網や交通網の混乱により、多数の帰宅困難者が発生 ・東日本大震災や熊本地震、千葉市地震被害想定の調査結果等に基づき、地域防災計画を修正	・政府は、本市を含む南関東地域でマグニチュード7クラスの地震が発生する確率を、今後30年間で70%程度と推測 ・首都中枢機能への影響や、火災や帰宅困難などによる膨大な被災者の発生

○　新型コロナウイルス等の感染症リスク

現状	今後直面する社会変化
・新型コロナウイルスの影響 → 感染症患者が多数発生 → 緊急事態宣言の発出等により、社会経済活動が停滞 → 市民・企業とともに社会を変えるチャンスととらえ、「ちばしチェンジ宣言！」を発出	・ポストコロナ社会の到来 ・デジタル化の急速な進展。経済活動、社会活動におけるサイバー空間（仮想空間）の活用の加速 ・有効な解決策を持たない新たな感染症が流行し、再び社会経済活動の停滞や市民生活が制限されるおそれ

○　公共インフラの老朽化

現状	今後直面する社会変化
・公共施設・道路・市営住宅等の公共インフラの老朽化が進展 ・長寿命化計画の策定。計画に基づく維持管理の実施 ・安全点検等の保全業務を行う技術者の不足	・インフラの老朽化が一層進行し、更新時期を迎えるインフラが多数発生 ・インフラの更新に莫大な費用が発生 ・安全点検等の保全業務を行う技術者不足の深刻化

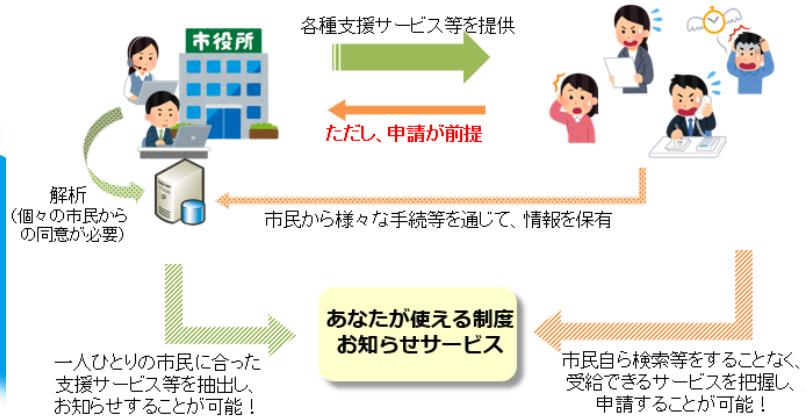
【資料2】策定の背景③

（2）これまでの主な取組み

本市では、これまでも市民に時間を返す市民サービスや、市民全員参加のまちづくり、産官学の連携による国家戦略特区制度を活用した実証等、テクノロジーを活用した取組みを積極的に推進しています。

○「時間を返す」市民サービスの実現

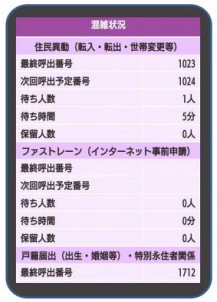
あなたが使える制度お知らせサービス ～For You～



【取組内容】
- 各種手当の受給や健康診査などの利用について、市が保有する住民情報を活用して、対象となる可能性のある市民に対し、LINEにより個別に通知。

【取組の趣旨】
- 自ら検索や問い合わせを行う負担の軽減
- 個別通知による、受給漏れ防止

区役所窓口の混雑状況の配信



スマートフォンの表示例

プッシュ通知の流れ

【取組内容】
- パソコンやスマートフォンから、区役所窓口（市民総合窓口課）の待ち人数や時間、呼び出し中の番号をリアルタイムで表示
- 窓口の呼び出し順が近づいたらプッシュ通知

【取組の趣旨】
- 区役所滞在時間の最小化
- 来庁者の分散化による混雑回避

【資料2】策定の背景④

○市民全員参加のまちづくり

市民協働プラットフォーム「ちばレポ」の運用

スマートフォンの
表示イメージ

ちばレポの流れ

【取組内容】
- 市民からレポートされる地域の課題（道路や公園の損傷等）をWEB上で可視化・共有化し、市民協働により解決可能な課題は市民の力で解決を目指すサービスを提供

【取組の趣旨】
- まちづくりへの協働意識の高まり
- いつでもどこでも誰でも行政・市民と共有可能
- 行政の業務処理の効率化

ちばシティポイント

ボランティア関連活動

健康維持・増進活動

市の推進する施策等

ちばシティポイントの対象事業（2021年５月現在）

【取組内容】
- ボランティア関連活動や健康維持・増進活動等に参加することでポイントを付与
- 貯めたポイントは電子マネーや特典品への交換、ＮＰＯ法人への寄付等が可能

【取組の趣旨】
- 市民等の対象活動への参加意欲の向上
- 地域コミュニティの活性化

【資料2】策定の背景⑤

○国家戦略特区制度を活用した実証

自動運転・パーソナルモビリティ※1の走行実証

次世代モビリティの一例

【取組内容】自動運転バスやパーソナルモビリティ等の公道実証等
【取組の趣旨】都市の回遊性の向上、ラストワンマイル※2の課題解決等

ドローン宅配実証

【取組内容】
東京湾臨海部の物流倉庫から幕張新都心まで東京湾上空を飛行し、若葉住宅地区のマンションに宅配（千葉市ドローン宅配構想）
【取組の趣旨】
配達時間の短縮等による利便性向上、物流に係る人手不足の解消等

シェアリングエコノミー※3の活用推進

【取組内容】
イベントホームステイ、特技や趣味等の体験提供による観光まちづりの推進に向けたサービス提供者の発掘・育成・実践機会創出
【取組の趣旨】地域共助の促進

都市部におけるオンライン服薬指導

【取組内容】市内在住の患者にオンライン服薬指導を実施
【取組の趣旨】生活の利便性向上、医療機関や薬局での待ち時間の解消

※１　主にバッテリーを動力源とした1人乗りの簡便な乗り物や移動機器
※２　バス停や駅から自宅までの間など、到着場所から最終目的地までの比較的短い距離の移動手段
※３　個人等が保有する活用可能な資産等をマッチング事業者を介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動

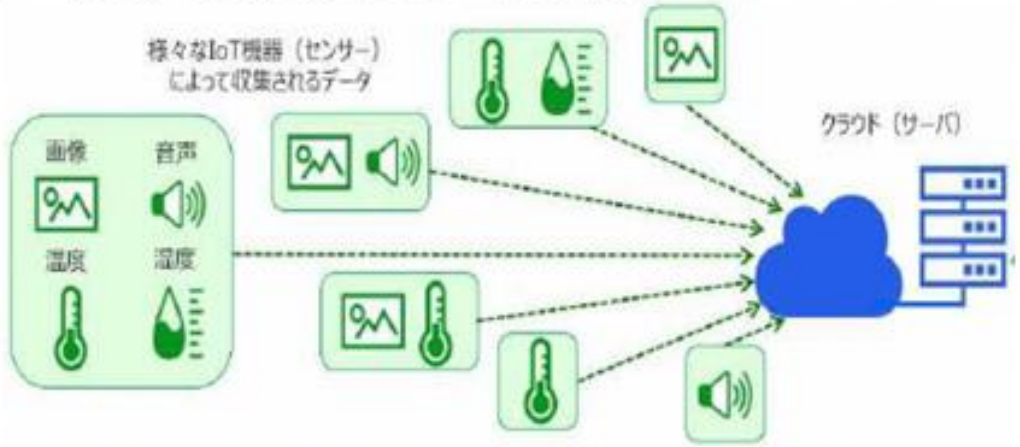
【資料2】策定の背景⑥

（３）テクノロジーの進展

近年、センサーにより収集した情報をIoT機器を通じて蓄積する「IoT・センシング技術」、自動車やロボット等を自動制御する「自動制御技術」、多種多量のデータを高速に転送する等の「通信・ネットワーク技術」、蓄積された膨大なデータを統合・AI等が分析・予測する「分析・予測技術」等のテクノロジーが急速に進展しています。これらのテクノロジーは持続可能なまちづくりを実現するためのツールとして有効です。

IoT・センシング技術

各種センサーにより情報を収集するとともに、IoT（モノのインターネット）機器を通じてデータを蓄積



出典：総務省「ICTスキル総合習得プログラム」https://www.soumu.go.jp/ict_skill/

自動制御技術

自動車やロボットの自動制御に向けた取組の進展

自動運転

配送ロボット

出典：内閣府SIP「SIP CAFE」
https://sip-cafe.media/

【資料2】策定の背景⑦

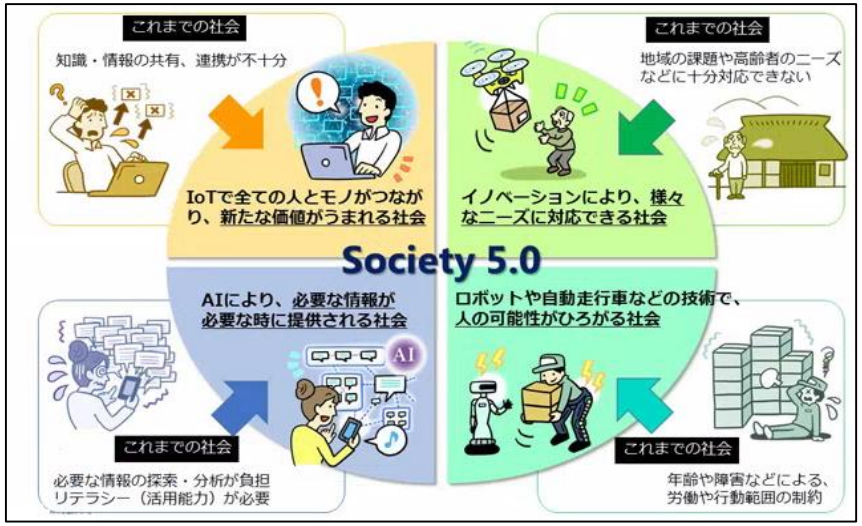
（４）国の動向

急速なテクノロジーの進展を背景に、先端技術等のテクノロジーをあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな社会の実現を目指しています。

【Society5.0の提唱】

IoTによりサイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を連携し、すべての物や情報、人を一つにつなぐとともに、AI等の活用により量と質の全体最適をはかる社会として「Society5.0」を提唱

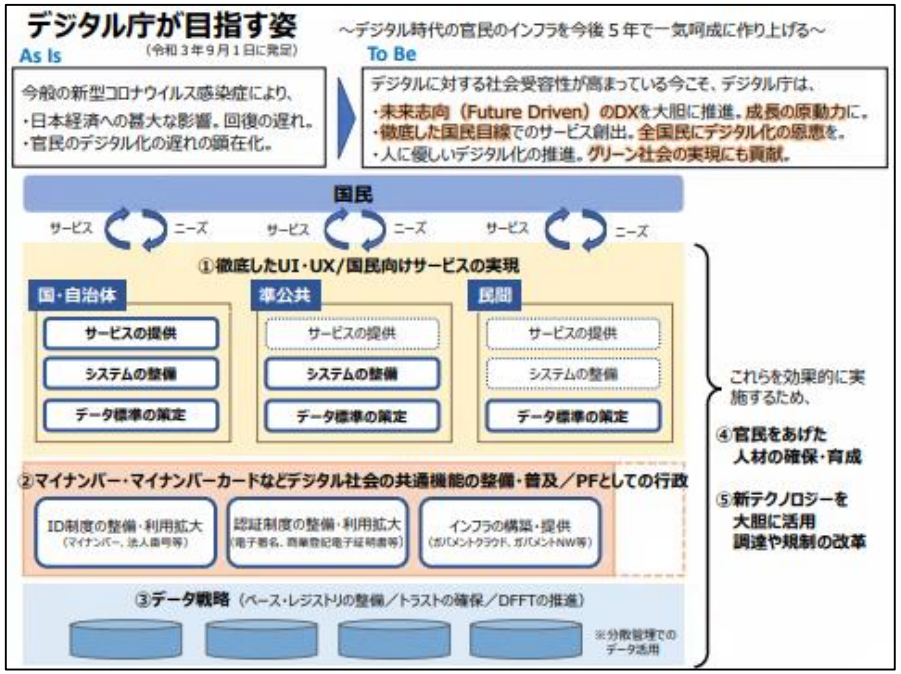
○ Society5.0で実現する社会



出典：Society 5.0「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」（内閣府）

【デジタル社会形成基本法の制定】

デジタル社会の形成に関する基本理念を規定。また、内閣にデジタル庁を設置し、政府がデジタル社会の形成に関する重点計画を作成



出典：第9回成長戦略会議配布資料（資料４）（内閣官房）